

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790101117		
法人名	(株)ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	あったかいご方木田 グループホームそよ風 1丁目		
所在地	福島県福島市方木田字北白家15-1		
自己評価作成日	令和3年3月28日	評価結果市町村受理日	令和3年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1丁目 認知症の症状が重度のため、寝たきりや、車イス、食事介助が必要な利用者様が多くおられる中、日々の様子や、会話などで利用者様の思いや状態を知り、ミーティングなどで話し合い、利用者様によりよいケアを提供出来るように努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者の性格を把握し、人権やプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。スタッフ同士の申し送りでも大声にならないよう配慮する他、排泄や入浴も希望があれば同性介助で対応している。また、一人を好む利用者にはレクを強要せず個別に趣味を楽しむ時間とするなど利用者本位のケアに努めている。
2. 家族対応による従前のかかりつけ医へ受診ができるように支援し、通院時には職員も同行して医師との情報共有や連携を図っている。また、通院が困難な場合には協力医による往診に切り替え、週1回の訪問看護や毎月の訪問歯科医の指導を受けながら一人ひとりの状態に応じたケアを行っている。さらに、重度化した場合には利用者や家族等の希望により看取りを実施し、職員が主治医や看護師と連携を図りながら、最期まで安楽と尊厳が保てるケアの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を考えながら事業所独自の理念を作り上げている	理念は、昨年1月に見直しを行い職員全員で話し合っって新たに策定し、各ユニットのリビングの壁面に掲示し、いつでも、職員が確認できるようにしている。また、管理者は全体会議で理念を分かりやすく説明して職員への浸透を図り、実践に結びつけるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏の盆踊りに参加や敬老会等の参加にお誘いを受けている。毎月集会所にてカフェを開催している。(いきいきもりん体操のお手伝い)	事業所は、町内会に加入しているが回覧板は回って来ない。地域の情報は、運営推進会議委員の区長や民生委員から得ている。また、近隣の保育園とは、開所当初から継続して互いにクリスマス会に招待するなどして交流を重ねている。さらに、毎月認知症カフェを開催し、利用者も参加して地域の高齢者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの修了書を持っている。運営会議やカフェを通して認知症への理解を話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	地域代表・ご家族様代表・地域包括職員・町内会長・民生委員の参加により、地域での出来事や施設内での出来事の情報共有化をし、常に認知症の方が地域で暮らし続けていくにはをテーマにアットホームな雰囲気の中話し合いをしています。	一昨年11月までは事業所で開催していたが、それ以降はコロナ禍のため書面会議にしている。各委員に資料を送付し、併せて用紙と返信用封筒を同封し意見や質問を受けている。以前は利用者が参加していたが、認知症が進行したため今は参加していない。また、以前から家族が委員になっておらず会議に参加していない。	運営推進会議に家族が参加していないので、事業所の取り組み状況を周知し課題等へ家族の意見が反映されるように早急に家族を委員に委嘱し、参加を促す取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括職員や長寿福祉課職員、在宅医療・介護連携支援センターへ困難ケースや等相談をして頂いております	生活保護受給中の利用者があるため、市の担当ケースワーカーが定期的に訪問しており、連携を図っている。市の長寿福祉課と直接接する機会は少ないが、地域包括支援センターを通して連携している。また、市から委託を受けた在宅医療・介護連携支援センターへ困難ケースの相談等を行い連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や勉強会・会議を行い常に身体拘束について話し合い防止に努めております。また、玄関の鍵は日中はかけず開放的にしております	エリアマネージャー・管理者・職員2名の4名で構成する身体拘束適正化委員会を2か月に1回開催し、各ユニットに議事録のコピーを配布し、ユニットリーダーが口頭で職員に内容を説明し周知している。また、3か月に1回全体会議やユニット会議で勉強会を開催し、身体拘束をしないケアについて話し合い、防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	積極的に外部研修へ参加し常に虐待とは何か…考えスタッフも日常のケアの中で虐待になるのか…等をその都度確認しケアに努めている。2ヶ月に一回虐待廃止会議を行い、虐待につながらないか確認しながら防止に努めました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括職員に相談をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解の上で入居頂いております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へ聞き取り運営に取り入れております	利用者の意見は、職員が日頃の関わりや会話を通して把握に努めている。把握した一人ひとりの意見をミーティングで伝達し、職員間で共有している。また、家族の意見は面会時や電話で連絡を密にして意見を傾聴しながら把握するようにしている。出された意見は運営に反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフと日常の何気ない会話の中での言葉をすくい上げ運営に反映するよう努力している。また、個人面談の実施をしている	職員の意見は、日頃の業務のなかで把握するように努めている。また、年2回、管理者はエリアマネージャーとともに個人面談を実施し、意見や要望、仕事で困っていること、悩みなどを聞き、対応できるものは速やかに対応するとともに、出された意見等は運営に活かすように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度管理者会議を開いており私たちの意見を聞いてくださっております		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度管理者会議を開いており私たちの意見を聞いてくださっており、そのような場を設けるよう推薦して下さっております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の大切さを理解して下さっておりそのような場を設けるよう提案を聞いて下さり実現しております		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査にて想いをくみ取っております。また、ご本人様から聞くことが困難な場合はご家族様からの意見を参考にしております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査にて想いをくみ取り、また、改めて入所した初日にまた想いを聞いております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の実態調査にて想いをくみ取り、また、改めて入所した初日にまた想いを聞きより良い生活にするには…と…一番に考え努めております		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここでの生活の主はご利用者様であることをスタッフも再認識し自立支援と自己決定が出来る様な支援の取り組みをしております		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へも積極的に関わって頂く様日ごろの様子や今飲んでいる薬等を広報でお送りし共に支えていけるよう関係を築いております。また、通院の協力を頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所付き合いが継続出来るよう面会時にはこちらからも「いつでも良いのでまたお越しください」とお伝えしております。また、ホーム内での関係も途切れないよう関わりを持てる支援に努めております	コロナ禍以前は、知人友人との面会や行きつけの理容店への外出など馴染みの関係継続を支援してきた。また、家族の協力を得て帰省やお墓参りなどを支援してきたが、今は中断している。現在は、玄関でのシート越しの短時間の面会を行い、通信だよりを毎月送付し関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で何かされる際には見守るようにしております。(あれとってや貸して等の簡単なこと)関係の良くない利湯者様同士の関わりあいには距離感にも気をつけております		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も年賀状のやり取りやご家族様が来訪して下さいと関係性を大事にしております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の様子からも想いや希望をくみ取るように努めています。月1回担当者会議を開き把握に努めています。	日々のケアの中での何げない利用者との会話を大切に、何がしたいのか、どうしたいのかを引き出すようにしている。会話が困難な利用者は、表情や仕草などから汲み取ったり、家族からの情報に基づき利用者本位で推測し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から昔の話しを聞いたり、ご家族様とお話する機会をつくりその方の人生全体を捉えて関わられるようにしております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様には担当スタッフがついており、担当スタッフ中心に日ごろの把握に努めその都度ミーティングにて見直しを行っております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調の変化や日々の関わりの中で利用者様やご家族様の意向を把握し職員間でケース検討会議を行い介護計画書を作成しております	ケアマネジャーが業務日誌などの日々の記録やスタッフ会議での職員の意見を参考にしながら、電子記録から最新の情報を確認してアセスメントを行い、ケアプランを作成している。モニタリングは、遅番の職員が毎日電子記録にまとめることになっており、ケアマネジャーがそれらを総括してモニタリングを行い、ケアプランの見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援、その結果を記録できております。気づき・工夫等も記録しリーダーが吸い上げ統一した対応が出来るようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変わった時は、最善のケアが出来るようにアイデアを出し合い、試行錯誤しながら支援に取り組んでいる。そのための勉強会も行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の協力を得ており、ご利用者が帰宅願望にて外出や徘徊しても温かく見守ってくださっております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご利用者様には在宅から続いている主治医がおり継続出来るようサポートしております。また、受診が困難になった場合にはご家族様と相談し病院を選んで頂いております	入居前のかかりつけ医を継続する利用者が多く、家族の協力を得て職員も同行し受診している。受診が困難になった段階で往診に切り替えている。往診に変更する時も家族の意向を聞いて選択してもらうなど、医師・家族との信頼関係づくりに配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護に向け担当者がノートに記入しその都度処置の指示やご指導をうけ日々のケアに活かしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員とこまめに連絡をとり早期退院に向け会議に参加したりと良好な関係を築いております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針やホーム内の看取りについて入居時に説明しホームの指針を理解した上で入居して頂いております。また、状態変化に伴い改めて再度看取りの指針を理解していただき同意書をもらい地域の医療関係者様・スタッフ・ご家族様が一体となり取り組んでおります	契約時に重度化について説明し、終末期の希望を取り、同意を得ている。重度化した時は主治医より説明を行い、看取り希望がある場合は訪問看護師による健康管理を行い、コロナ禍でも家族の面会や付き添いを受け入れ、協力を得ながらチームによる看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様ごとに起こりうる急変やリスクについて検討し対応の仕方をスタッフで共有しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日々掃除の時火災防止の為危険箇所がないかチェックをしている。年に2回の総合避難訓練を行いました、運営会議にて災害(水害も含む)時の対応の確認もしております	年2回総合訓練を行っている。また、日ごろからコンセントの掃除や避難経路の確認に努めている。さらに、水害時の対応について消防署と話し合い地元小学校を避難場所としている。運営推進会議でも避難について話し合い協力を得られるようになっている。食料や水など災害備蓄も確保している。	職員が少ない夜間想定訓練は行っていないので実施が望まれる。また、水害時の避難先を小学校としているが災害時のバックアップ施設となっている福祉施設への避難の検討も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に合わせた対応、個別ケアに努めています、申し送りや日々の会話の中でも気をつけております	利用者の性格を把握し、人権やプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。スタッフ同士の申し送りでも大声にならないよう配慮している。排泄や入浴も希望があれば同性介助で対応している。また、一人を好む利用者にはレクを強要せず、個別に趣味を楽しむ時間としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えやすい質問に心がけご本人様の意思を引き出せるようにしております。また、飲み物やおやつ、衣類の自己決定を促しております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に応じて無理のない生活が送れるよう配慮しております。時間に関係なく本人の希望で居室で休んだりして頂いております。朝も目が覚めた方から起きて頂いております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は選んで頂き、整容も促しています。爪切りや髭剃りのお手伝いをし身だしなみに気をつけております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	皆で楽しく御食事を共にしております。また楽しくお食事をとれるよう機の配置に工夫した対応をしましたが、コロナ渦の時期は食事の配置や人数を制限した対応をしております。	利用者も一緒に米研ぎやみそ汁用の野菜を切ったり盛り付けなどを一緒に行っている。行事食は手作りで利用者の好みを取り入れるなど、食事が楽しめるよう取り組んでいる。チルド食を活用し、重度化が進行している利用者のケアに努め、業務の省力化を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様やそれぞれの好みや状態に応じて食事や飲み物を提供しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指示のもと、朝、夕に一人ひとりに応じた口腔ケアを行い出来ることは本人に行って頂いております。また、食前の口腔体操も楽しく行っております。毎月8日を歯の日とし、口腔チェック歯ブラシ交換に努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援しています。	排泄チェック表で確認しながら、そっと声をかけトイレでの排泄支援をしている。夜間はポータブルトイレを活用する等自立排泄に向けた環境設定に努めている。オムツが汚れたからではなく、パンツの交換と声をかけ、羞恥心への配慮にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を取り入れたり飲食物やマッサージ等で工夫をしておりますが、薬での調節もしております		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある入居者様には希望に添えるようにしております。入浴拒否の方や重度認知症の方は気分、体調の良い日に入浴して頂いております	入浴は週2~3回入るほか清拭をこまめに行い清潔に努めている。希望する利用者には毎日でも対応している。入浴を嫌がる場合はスタッフを変えるなど工夫している。家族からいただいたゆずでゆず湯を楽しんだり、入浴剤で温泉気分を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に応じて休んで頂いております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は説明書を読み理解し分からないことは看護師や薬剤師へ聞き把握に努めてます。また、変化については経過を記録し往診時に報告しております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ること、楽しめることを探り支援しております。月一回のご当地メニューの提供や、外食支援にて気分転換を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には、近くに散歩に出かけたり、庭のお花を見たり。季節のお花(桜、バラ)など見に出かけておりましたが、コロナの影響もあり、外出支援は控えておりました。	環境委員会が作った花壇で花や夏野菜を植え、利用者が水やりをして成長を楽しんでいる。天気の良い日は散歩して気分転換を図っている。コロナ禍で外出機会は減ったが、今後四季の里など自然を味わえる近郊へのドライブの計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル等の心配のないご利用者様がご希望の場合、家族様と連携をとり所持しておりました。また、ご家族様が預けて行った際は必ずスタッフへいくらをどこに預けたかを声かけて頂くようにしております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話がかけられるように事務所は開放しております。また、子機が各ユニットにあり、外線はついてませんが、いつでもご家族様からかかってきたお電話繋いで会話を楽しまれております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招く刺激はありません。花や壁画で季節感を出し臭いへの配慮や温度調節も行っております	エアコンや加湿器、空気清浄機などを使い快適に過ごせる環境づくりに努めている。居間にはソファコーナーもあり昼寝をする等くつろげる空間となっている。季節ごとに合同作品を作り飾るなどアットホームな雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、一人でも足を伸ばしてくつろいだり入居者様同士座ってお話できるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時準備して頂いております	入居時に馴染みのものを持ち込むよう依頼し、テレビ・こたつ・テーブルなどを家族の方と相談して配置を決めている。入居後に作ったぬいぐるみやタペストリー、写真などを飾りその人らしい部屋作りをしている。ペットの配置は立ち上がりの良さや自宅での習慣などにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しく入った入居者様がなれるまでトイレの張り紙(トイレ)を貼ったり工夫をしております		